

# 校歌

中西 利徳 作詞  
村山沼一郎 作曲

一、米峰突兀 雲を貫き

み空に多(おほ)かく 玉芙蓉

嗚呼 麗(うるわ)しく 嗚呼高し

くらべても見(み)む 我が校や

意志の助動詞

突兀…岩や山などが高くそびえている様子  
玉芙蓉…「玉」は美称。「芙蓉」はハスの花の異名。「芙蓉の峰」は富士山の異名。ここでは米山と同じく世に高く美しくそびえる我が校であろうという誇りを歌う。

二、怒濤澎湃 天を衝き

逆巻き寄する 日本海

剛毅勇健誠実の

我等が意気を ここに見よ

対句

怒濤…荒れ狂う大波。  
澎湃…水が勢いよくあふれ波立つさま。  
剛毅…意志が強くくじけないこと。  
米峰突兀雲を貫き一怒濤澎湃天を衝き世の中の試練は日本海の荒波のように押し寄せてくるけれども、我等もまたあふれる意気と勢いをもって乗り越えていくという決意を歌う。

三、義侠に勇み 武に強く

威風 天下を靡(な)かせる

霜台公が 旗あげし

仰げ 米山 その旧跡(あ)を

謙信公の故事を手本と仰いで、威風堂々となり、信念を遂げたいと歌う。

四、右文尚武 勤儉に

重き責任 尽くされし

楽翁公が 旧治蹟

汲(く)め 白河のその流れ

右文…学問を尊び重んじること。  
尚武…武道を重んじること。  
勤儉…真面目に勤めむだ遣いをしないこと。  
楽翁公…白河(現福島県)藩主松平定信公をさす。清廉潔白な政治を行い「白河の清きに魚もすみかねてもとのにごりの田沼こひしき」と言われたほどである。当時天明の大飢饉のおり、白河藩からは飢饉による死者を一人も出さなかつたことで有名。

松平定信公ゆかりの白河の流れを汲んで、着実に文武に勤めたいと歌う。

五、霜凜烈の 朝まだき

雪繚乱の 夕まぐれ

守れや 規律 厳(お)かに

踏みならしてよ 我が健児

対句

霜凜烈の朝まだき一雪繚乱の夕まぐれ冬の寒さのように厳かに規律を守る誠実・堅実さを歌う。

六、蛩を集め 雪を積み

弥(や)いそしみて 身を照らせ

世は 我が起(た)つを 待てるなり

何処(い)ずこ 飛躍の地 ならざる

蛩を集め一雪を積み何処飛躍の地ならざる…どこが飛躍の地でないことがあるうか、いや、世界中全ての地が我等の飛躍の地だ。学問に励んで世界中に飛躍していきたいと歌う。世の中が我等の活躍を待っているのである。

反語

断定 打消の助動詞

七、謳(うた)ひて祝(いのち)がむ 諸(もろ)共に

葉守(はもり)の神の 柏木(かしわぎ)の

常盤(とこまわ)堅磐(かまわ)に 色(いろ)そひて

根(ね)ざし揺(ゆ)るがぬ 我が校(が)や

意志の助動詞

葉守の神…古来より柏の木に宿るとされた、樹木を守る神。転じて、皇居を守る兵衛や衛門な木も「葉守の神」と呼ばれた。常盤…常緑樹のように永久に不変なこと。堅磐…硬い岩。

謳ひて祝がむ 諸共に…一緒に歌って色そひて我が校や根ざし揺るがぬ存在である我が校の発展を、皆で校歌を歌って祝おう。